

「アラスカ北極圏での生存漁労・狩猟経済における北極鯨漁の役割と重要性」

生田博子（九州大学）

生存漁労と生存狩猟は、アラスカ辺境地域経済の主な特徴である。アラスカの北極圏に暮らす人々は、年間 4,657 トン以上の野生動物や魚類を収穫し、その金銭的価値は、およそ 8,200 万ドルに相当する。2012 年から 2015 年にかけて、私はアラスカ州政府研究機関の研究責任者の一人として、アラスカのノーススロープに 6 つある捕鯨を行う市町村のうち 5 つの市町村で生存漁労・狩猟に関する包括的調査に参加した。これらのプロジェクトでは、それぞれの市町村で、100 を超える魚類、陸生哺乳類、海獣、鳥類、野草の採取量、分配、使用方法に関するデータを収集するとともに、食料安全保障、食糧分配ネットワーク、住民が生存漁労と生存狩猟が行う領域に関する資料を作成した。このプレゼンテーションでは、アラスカで一番大きな北極鯨漁をする街で、年間 25 トン以上の可食部位を消費するバローに焦点をあて、アラスカの北極圏での、生存漁労・狩猟の経済の中での捕鯨の役割と重要性について探求する。